

東海大学博物館だより

海のはくぶつかん



駿河湾の魚が大集合！（特別展 駿河湾おさかな博覧会より）

Vol.46 No.3

2016.7 夏号

C O N T E N T S

- | | |
|--------------------|------------------------------------|
| 特別展 | ・『駿河湾おさかな博覧会』を開催中！ —— 富山晋一 2 |
| イベント | ・東海大学附属小学校 仲良くなりたい恐竜を学ぶ！ —— 手塚覚夫 4 |
| 話題 | ・今年はなんと オオグソクムシ変わりコイのぼり！ —— 手塚覚夫 6 |
| 話題 | ・深海の新たな仲間たち —— 犬木義文 7 |
| INFORMATION | 8 |

『駿河湾 おさかな博覧会』を開催中！

富山 晋一
Shinichi TOMIYAMA

海の学び Supported by 日本財団
ミュージアム THE NIPPON FOUNDATION
サポート
協力：船の科学館
「海の学び ミュージアムサポート」

海洋科学博物館では、4月29日から10月10日まで特別展「駿河湾 おさかな博覧会」を開催中です（写真1）。この特別展では、駿河湾にすむ魚たちにスポットを当て、それを支える本湾の環境、代表種の特徴、そして水産資源として人々が享受する恩恵についてご紹介しています。さらに、駿河湾の魚を対象としたいくつかの研究分野にも触れ、科学的な知見が明かされる舞台裏にも迫っています。ここでは、特別展の内容をかいつまんでお伝えしたいと思います。

コーナーⅠ．駿河湾ってどんな海？

駿河湾の環境についてのコーナーで、海底に深い溝（駿河トラフ）があり最大水深が日本一であることや、性質の異なる海水が層状を成していることなどを紹介しています。このような独特で変化に富んだ環境が、多種多様な魚たちを育てています。

コーナーⅡ．駿河湾の魚たち

駿河湾の魚類相の特徴をはじめ、風変わりな生態（擬態、発光、共生など）、本湾で発見された様々な新種や日本初記録種、そして「しずまえブランド」と呼ばれる静岡県一押しの水産物などをピックアップしてご紹介し



写真1 特別展会場の入り口



写真2 駿河湾の豊かな魚類相を紹介



写真3 ダテハゼが共生するニシキテッコウエビの巣穴



写真4 駿河湾から新種報告された魚たち

ています（写真2、3、4）。

このコーナーⅡが本特別展の目玉になりますが、中でも駿河湾の魚類相に関する展示では過去に生息が確認されているほぼ全種が標本と図で紹介されており、見逃せないポイントになっています（写真2）。余談ですが、この展示の標本水槽は当館職員の手作りで、標本の全長と体高を1個体ずつ計測して適切な水槽の大きさを割り出し、アクリル部材を接着剤で組み立てるといふ、ちょっとした手間をかけています。

コーナーⅢ．駿河湾にすむ魚の研究

駿河湾の魚類相のほか、駿河湾を調査のフィールドとして得られた分類や生態に関する研究成果について、当館の業績を交えつつご紹介しています（写真5）。少し専門的な内容も含まれますが、駿河湾の魚についてこれまでに人々が知り得た情報が、どのような手法によって明



写真5 駿河湾の魚に関する研究の紹介



写真6 来場者の方々が描いた想像の魚たち

らかにされてきたのかがお分かりいただけると思います。

このコーナーには、来場者の皆さんが研究の一部を体験できる展示も設けました。一つは「みんなでつくる想像の魚」（写真6）、もう一つは「魚の種類を調べよう！」です。いずれも魚類相の研究に関連する内容で、前者は標本の採集と保存のプロセスを想像の魚を描いて掲示するという行為に置き換えたもの、後者は研究者と同様な方法で種同定を体験するというものです。特に前者は人気があり、大人・子供を問わず真剣に取り組む方が多く、力作ぞろいの膨大なコレクションが誕生しつつあります。

ここまで、簡単に特別展をご紹介してきましたが、皆さんにはぜひご来館の上、じっくりと展示をご覧いただければ幸いです。また、9月には本特別展に関連したイベントも計画しています。どうぞご期待ください。

東海大学附属小学校 仲良くなりたい恐竜を学ぶ！

手塚 覚夫

Sadao TEZUKA

この春、東海大学自然史博物館において、東海大学附属小学校（現 東海大学附属静岡翔洋小学校）の1年生17名が恐竜について学びました。事前に児童達は恐竜について下調べをしており、様々な質問も用意してくれていました。また、児童達は「仲良くなりたい恐竜」を想像して、絵を描いてきてくれました。それらの恐竜達を題材に、恐竜はどのような生活をしていたのか、恐竜はどのようにして絶滅してしまったのかなどの疑問を当館の学芸員と共に考え、恐竜や古代の環境へ理解と興味を深めました。

この企画は今年の春に上映されたディズニーピクサーのアニメーション映画「アロと少年」と関連付けて行われたもので、映画に登場するティラノサウルスの日本語吹き替えを担当された女優、片桐はいりさんも参加して下さいました（写真1）。当館ではティラノサウルス



写真2 タルボサウルスの全身骨格標本

に比較的近縁なタルボサウルスの全身骨格を見ることができます（写真2）。タルボサウルスはティラノサウルスと同じく白亜紀後期に生息した恐竜で、その化石は現



写真1 柴学芸員と片桐はいりさん



写真3 想像した恐竜を発表

生き物が絶滅したとされています。

さて、イベントでは、映画と同様に恐竜が生き残っていたら…という仮定のもと、付属小1年生の児童達に仲良くなりたい恐竜を描いてもらいました。どのような性格の恐竜なのか、何を食べているのか、名前の由来は何かなど1年生の自由な発想にイベント会場は非常に和やかな空気です。笑い声が溢れました(写真3)。また、ときどき片桐さんから鋭い質問やコメントが出され

る、会場は大いに盛り上がりました。仲良くなりたい恐竜ということで、児童達が描いたのはほとんどが植物食恐竜でした。仲良くなっても、自分が食べられてしまっは困りますからね。それでも、中には肉食恐竜や、なんと火を吹く恐竜を描いた子もいました。

実際の恐竜については、体色や鳴き声などわかっていないこともたくさんあります。それでも、研究が進むにつれて、近年では皮膚に鳥のような羽毛が生えていたことを示す化石が発見されるなど、今まで分かっていなかったことが明らかになってきています。こうした発見があるたびに、研究とは面白いものだと思います。まだ誰も知らないことも、きっと化石と一緒に眠っているのでしょう。

今回のイベントを通して児童達は、恐竜はもちろん、地球の歴史や地層について学び、中には今まで以上に興味を深めた子もいたようです。それだけでも十分イベントを実施したかいがあります。もし将来、この児童達の中から恐竜の謎の解明に取り組む研究者が現れたなら、それほどうれしいことはありません。

在の東アジアから多く発見されており、北アメリカから多く発見されるティラノサウルスとは異なる分布をしていました。全長はティラノサウルスより一回り小さいですが、どう猛なハンターであったと考えられています。イベントは、このタルボサウルスの骨格が見下ろす恐竜ホールで、にぎやかに開催されました。

映画「アーロと少年」は、もしも恐竜が絶滅していなかったら…という設定で、恐竜が言葉を話し現在の人間のような生活を送っています。そして、言葉を話さない少年と友情を育むというファンタジックな内容です。

現実には恐竜は絶滅してしまいましたが、その理由には諸説あります。例えば、気候変動によって植生が変化することで植物食恐竜が減少し、その影響で肉食恐竜も衰退したという説や、ネズミのような小さな哺乳類の繁栄が始まり、恐竜の卵を食べてしまったという説などが過去には唱えられました。しかし、現在、最も有力なのは、地球に隕石が衝突したという説です。この説では、隕石の衝突によって舞い上がった大量の粉じんが太陽の光を遮り、気候が急速に寒冷化したことで恐竜を含む多くの

今年はなんと オオグソクムシ変わりコイのぼり！

手塚 覚夫

Sadao TEZUKA

当館では毎年、春に合わせて『変わりコイのぼり』を制作しています。この『変わりコイのぼり』は、その年に博物館で展示する生き物や世間で話題になりそうな生き物をモデルにしており、今までにメガマウスザメの雌雄、カクレクマノミの家族、恐竜のタルボサウルス、鳥のカワセミなどを作ってきました（写真1）。



写真1 例年の変わりコイのぼり

今年のモデルはなんとオオグソクムシ。深海生物の人気やキモかわブームで話題になることが多いので、皆さんも新聞やテレビでご覧になったことがあるのではないのでしょうか？当館でも、生きているオオグソクムシを海洋科学博物館1階の水槽で展示しています（写真2）。

毎年、『変わりコイのぼり』の制作を依頼している職人さんも、今年のモデルがオオグソクムシだと聞いて驚いていました。制作にあたっては、これまでに作ってきた魚や恐竜の変わりコイのぼりとは違った難しさがあります。本物のオオグソクムシは背側が丸く、お腹側が平らです（写真2）。さらに、海底をはうための脚が7対、泳ぐときに使うひれ状の腹肢が5対もあります。このような複雑な形は、過去に制作された『変わりコイのぼり』にはなかったからです。



写真2 オオグソクムシ



写真3 紙ねんどで試作

そこで、精巧なオオグソクムシのぼりを作るために、職人さんは紙ねんどで形を作り、イメージを膨らませていきました（写真3）。このような工程を設けるのも異例のことです。他にも様々な工夫を重ね、いくつもの難関を乗り越えて完成したオオグソクムシのぼりは、今年の4月8日から5月5日のこどもの日まで、博物館前のエントランス広場において空を泳ぎました（写真4）。風をはらんで膨らんだオオグソクムシのぼりを本物のオオグソクムシと比べてみると、体形や脚の形もよくできており、見ていて面白かったです。また、今年は『変わりコイのぼり』を支えている柱の滑車が破損し、コイのぼりを下せなくなるという事件もありましたが、何とか今シーズンを乗り切ることができました。制作において、毎年職人さんを困らせる『変わりコイのぼり』ですが、来年も変わった面白い生き物をモデルにして、みなさんに楽しんでいただけるように頭をひねっていきたいと思っています。来年の新作にも是非ご期待下さい。



写真4 オオグソクムシの変わりコイのぼり

深海の新たな仲間たち

犬木 義文

Yoshifumi INUGI

海洋科学博物館の目の前に広がる駿河湾は、日本で一番深い湾です。当館では、そんな駿河湾に生息する深海の生き物たちを展示しています。ところで、皆さんは、深海の生き物たちがどのようにして当館にやってくるのかご存じですか？ここでは、今年の春に筆者らが行った採集の様子をご紹介します。

深海の生き物の採集には、漁船「長兼丸（長谷川久志船長）」にご協力いただきました。出航は早朝のため、まだ周囲がまっくらな夜明け前に準備を整えて博物館を出発し、船が停泊する焼津市の漁港へと向かいました。漁港には午前5時ごろ到着し、長谷川さんに挨拶をした後、採集に使用する道具や餌、採集した生き物たちを入れるクーラーボックスなどを船に積み込みました。

準備を終えるとすぐに船は出港し、1時間ほどで目的地に浮かぶブイが見えてきました。ブイにはロープが結ばれており、そのロープの先にはカニ籠という漁具がいくつも仕掛けられています。カニ籠の中には餌となるマグロ類の頭が入っており、そのにおいにつられて、生き物たちが集まってきます。籠の入り口には、返しがついていて、一度入ると抜け出せない構造となっています。

目的地に到着した後は、船上にブイを引き上げ、ウィンチでロープを巻き上げます。カニ籠は水深約800mの深海底に仕掛けられているうえ、なにが入っているのかワクワクして待っていたせいか、籠が水面に姿を現すまでの時間はとても長く感じました。ようやくカニ籠が海面に到達し、初めに姿を現したのはエゾイバラガニという甲殻類でした（写真1）。このエゾイバラガニは、



写真1：エゾイバラガニ 実はヤドカリの仲間

見た目はカニにそっくりですが、脚が4対しかないのでヤドカリの仲間分類されています（カニの仲間では5対）。その後も次々に上がってくるカニ籠の中には、ピンク色のオタマジャクシのようなヒメコンニャクウオや名前のとおり真っ白なシロウニ、最近では世間でもすっかりおなじみのオオグソクムシなど、様々な深海の生き物が入っていました。中でも最も感動したのはクロダゴで、透き通った黒色の大きな目玉がなんとも神秘的でした（写真2）。



写真2：透き通った黒い目が特徴的なクロダゴ

採集された生き物たちは、約5℃の海水をはったクーラーボックスに素早く入れます。これは、採集を行った水深800m前後の水温が年間を通じて約5℃だからで、生き物に水温差による負担をかけないようにしています。

すべてのカニ籠の引き上げが完了した後、再び籠に餌を入れて深海に沈め、漁を終えました。帰港後は、素早く採集した生き物たちを車に積み込み、博物館へ戻りました。博物館へ到着後、一部の生き物たちは、ケガの治療のため、すぐに薬が入った水槽に移しました。今回採集した生き物たちのお披露目は、博物館の環境に馴染み、ケガの治療が終わった後となります。

当館では、今回採集された生き物のほかにも様々な深海の生き物たちの展示をしています。その神秘的な姿を、ぜひ皆さんにご覧いただきたいと思います。

海洋科学博物館・自然史博物館



2016★夏休みイベント情報

●海洋科学博物館のイベント

・ナイトアクアリウム

8/13(土)～8/21(日)、
27(土)・28(日)
18:00～20:00 (随時参加)
参加費：大人 1,000円 (高校生以上)
小人 500円 (4歳以上)

◆涼しい夜の水族館で
神秘的な時間を楽しんで♪



・ふれてみて サメと海の生きものたち

7/30(土)～8/31(水) 10:00～16:00
◆タッチプールの中でサメやエイにふれてみて
その感触や体のつくりが学べるよ!



・夏まつり縁日水族館

8/13(土)～8/21(日) 10:30～16:00
◆「海そうおしぼ(100円)」に「磯の生きもの」…
自由研究・工作にも
役立つ海の楽しみ方、
遊び方が学べるよ!

※写真はイメージです。



・海のたんけんガイド みるしるノート

7/23(土)～8/31(水)
◆飼育・展示生物や標本から海を学んで
夏休み研究の題材が発見できるよ!
入門編・応用編 各300円



10/10(月・祝)まで
好評★開催中! 特別展 **駿河湾おさかな博覧会**
日本一深い駿河湾ってどんな海? 駿河湾に棲む魚たちに迫ります!



●自然史博物館のイベント

・化石クリーニング!

8/13(土)～8/21(日)
10:00～12:00・13:00～15:00
◆本物のサメの歯の化石をクリーニング
して、お持ち帰りできます♪
1個500円 1日100個限定



・恐竜に食べられる!? 恐竜迫力撮影会

8/13(土)～8/21(日) 11:00～15:00
◆アジア最強のタルボサウルスに大接近!



・恐竜ナイトツアー ※電話でご予約下さい(9:00～17:00)

7/23(土)・24(日)・30(土)・31(日)・8/6(土)・7(日)
17:45～19:00 参加費：大人 1,000円 (高校生以上)
小人 500円 (4歳以上)

◆夜の博物館で驚き★たいけん!!



※内容は変更されることがあります。最新情報はホームページなどでご確認ください。

お問い合わせ：TEL.054-334-2385
ホームページ <http://www.muse-tokai.jp/>
海洋科学博物館公式スタッフブログ絶賛!公開中!

